令和 8 年 10 月 18 日（日）
秋の合同剪定会に参加しました　編

朝晩の冷え込みを感じるようになったこの頃，能代バイパス黒松友の会のみな様はじめ，日ごろの行いが良い方ばかりが参加されているとみえ，初日のこの日も絶好の剪定日和となりました。

のしろ白神ネットワークの松は毎回上下半分ずつを二人がかりで剪定していますが，今回は「剪定を体験してみたい！」と東京からご参加下さった戸谷さんと下半分を，能代河川国道事務所の澤畑尚也さんに上半分をお願いしました。

今回の開会式は能代山本地域交流センター内で行なわれ，その後の講習会もセンター前のクロマツを使って行なわれました。各オーナーが年 2 回剪定しているクロマツと違い，素人目にもかなりの手入れが必要そうな，講習用に適したものが並んでいました。

講習会では「葉を摘み取った箇所は永遠に芽が出ません」という強剪定気味の素人には恐ろしい説明を再びお聞きし，「迷ったら春の剪定会まで待とう！」と決意を新たにしました。

春の剪定会*では，講師の方からいただいたアドバイスに従い，いつもより控えめなみどり摘みの成果か，上部ほどではありませんが，心なしかふっくらしてきているように見えました。この姿を保てるよう気持ち抑え目に，お昼前まで揉み上げを行ないました。

上部の枝には，すす病も見られるようになっていました。緑の島との間に幹が見えるよう，もっと手を入れた方が良いとのアドバイスをいただきましたので，春の剪定会では脚立に上ろうか心が揺れ動いているところです。

今回の剪定会で生じた枝葉は来春まで木高研で自然乾燥させ，製炭体験会をまた開催したいと考えています。ご指導くださいました講師の皆さま，ご準備・サポート下さいました事務局の皆さま，今回も大変お世話になりました。

文：　渡辺　千明

＊令和 8 年 5 月 31 日の活動レポート参照



能代山本地域交流センター前のクロマツはモサモサに茂っていて，どこをとっても講習用に最適でした。



初参加ながら飲み込みの早い戸谷さん。無心になれますねと黙々と手を動かされていました。春に続く控えめ効果で指導員の方からは「まあまあそれなりにいい感じ」と評価をいただきました。嬉しい！



春に続き，今回も控えめでしたので剪定枝葉は小さいものばかり。土のう袋 1 個分でした（上）。講師の方が切ってくださった上部の混み合っている部分。来春はすべきことが沢山ありそうです（下）。



翌日午後から澤畑さんが頑張って剪定して下さいました。今回の剪定枝葉 200 袋は後日，木高研へ運んでいただくことにしています。

2009 NOSHIRO SHIRAKAMI NW. all rights reserved